

研究室 Close Up



海事人的要因研究室  
**瀧 真輝** 准教授

船長・航海士向けの  
 安全プログラムを作る

商船学は、工学系の要素を中心に社会科学  
 的な要素も加わった独特の学問で、船を取り  
 巻く、工学に加えて法学、経済学、といった文  
 科系学問が組み込まれています。私の研究室  
 では、船長や航海士といったプロフェッショ  
 ナルとそれを目指す学生に注目し、船の操縦判  
 断、特に衝突回避判断や海上交通環境の認知  
 について人間科学的に研究しています。船  
 の衝突回避は、自動車のように衝突の数秒前  
 から行うものではなく、衝突の数分から十数  
 分、場合によっては数十分前から行われます。  
 その衝突回避判断はさらにその前に行われま  
 す。このように船の衝突回避判断はとても長  
 い時間を扱うことから、将来の交通状況を推  
 測し、自船の針路変更に伴う交通状況の変化



を予測する必要があります。これには経験が  
 重要になるわけですが、経験は常に同じでは  
 なく、将来予測も異なることがあります。現場  
 ではこの違いが時に危険な状況を生じさせま  
 す。このような背景から人的要因を考慮した  
 新しいプログラムの研究開発効果検証を行っ  
 ています。プロフェッショナル用のプログラム  
 を開発すれば安全教育として活用することが  
 できますし、学生用のプログラムを開発すれ  
 ば養成教育として活用することができます。

当研究室の学生の多くは、航海士そして船長  
 として船を操り、海技者として活躍すること  
 を目指しています。しかし船の仕事に就かない  
 けれども海や船が好きという学生もいます。こ  
 れらの学生に共通しているのは、海での実習  
 等において『なぜ実習でこんな判断をし  
 ちゃったの?』とか『どうしてもこの実習は苦  
 手!』というような疑問を抱いていることの一  
 部分に感じます。研究は操船シミュレータを使  
 ったり、アンケート調査をしたりと真面目に楽し  
 く進めています。



卒業生からのメッセージ



**西山 和**さん

外航船社 勤務  
 三等航海士  
 2016年3月 海事科学部卒業

「未知」から「道」へ ～海・船の世界への一歩～

みなさんは、「海・船」についてどれだけ知っていますか？

私は現在、外航船員（航海士）として働いていますが、この海運業界のことは海事科学部に入学するまであまり知りませんでした。おそらく、多くの方が「海や船については未知の世界だ」と感じていると思います。しかし、海に囲まれた島国である日本にとっては、決して切り離すことができない世界です。例えば、私達が食べている物や着ている服、自動車の燃料や何気なく使っている電気なども、その多くは日本から遠く離れた所から船で運ばれてきています。今まで意識したことがないかも知れませんが、意外に我々の生活に根本的につながっているんですね。本学部は、そんな「海や船」と「私たちの生活」の関連性を授業、研究、実習を通じて見・聞き・体感し・学ぶことができます。また、皆さん自身もまだ知らない世界を知ることで、新たな発見や自らの秘めた可能性に気付くかもしれません。この瞬間、この世界が皆さんにとって、「未知」から皆さん自身の人生の歩む「道」へと変わるでしょう。

海事科学部を志望される皆さん、これからは様々な未知との遭遇になると思いますが、その時は自分の信じた道をまっすぐ、まっすぐ生きていってください。そして皆さんにとって、素晴らしい大学生活にしてください。